

共通教育について語り合う会「フクトーク」 —教養教育科目 B 群「社会構造と生活」を 充実させるために—

大学教育センター 津田 将行 日暮 美紀

1. はじめに

現在、日本や世界を取り巻く課題として、国際化、SDGs、環境問題、情報通信技術の発展、少子高齢化、及び地域格差などがある。それらの課題は、時に大きく変化しながら、場合によっては複合的要素が交わりながら、これまでの常識が通用しない、不透明で、予測がつかない社会への変動に伴い進行している。学生には、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用して、付加価値を生み、イノベーションや新たな社会を創造していく人材となっていくことが求められており、国際的視点を持ち、個人や社会で多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行うことができる力を身につけることが求められている。

そこで大学時代に社会人としての教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培い、諸問題の課題を解決するスキルを身に付けるために、本学の共通教育の役割は大きく、これには時代に合わせた充実した教育が望まれている。

本学では、学修の主体者である学生が参加して、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画する企画提案型の意見交換会「フクトーク」が開催されている。この「フクトーク」では、共通教育での学び方、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなどに関する語り合いを通じて、魅力的な授業内容・方法や新しい学びを創出しようとしており、共通教育の一層の充実が目指されている。初年次教育科目、共通基礎科目、教養教育科目、及びキャリア教育科目が、これに該当する。

2. 令和 6 年度におけるテーマ設定に関する経緯

本学では、学生の共通教育に対する現状把握と質の向上を目的として、共通教育科目の受講生が多い 1 年次を対象として、毎年、共通教育アンケートを実施している。

過年度にあたる令和 5 年度共通教育アンケート^①の中で、設問「共通教育科目で充実していると思われる科目群」に対する回答結果を図-2.1 に示す。この結果から充実度の割合が一番高いのは「英語」の 21.7%、次いで上位から順に「ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語など初修外国語」18.1%、「初年次教育科目（教養ゼミ）」13.4%、「日本語表現法」10.7%であった。このことから、言語系科目、及び教養ゼミに対する充実度の割合が高いことがわかる。

続いて、教養教育科目の E 群「芸術と健康・スポーツ」が 8.8%であり、次いで A 群「自然と科学」が 6.8%、F 群「地域学」が 4.6%、キャリア教育科目と C 群「歴史と文化」が 3.8%、B 群「社会構造と生活」が 2.8%、そして充実度の割合が最も低かったのは D 群「思索と創造」の 1.8%であった。このことから教養教育科目に対する充実度の割合が低く、その程度の向上を図る必要がある。

そこで、今回のフクトークのテーマでは、充実度の割合が低い教養教育科目群の D 群、B 群、C 群の 3 つの群の中から 1 つのテーマを選定することにした。しかし、D 群については、令和 3 年度のフクトークのテーマとして実施し、C 群についても、令和 5 年度のフクトークのテーマとして実施しているため、今回のテーマから外した。したがって、今回は B 群をテーマとすることにした。

ちなみに教養教育科目 B 群のテーマは「社会構造と生活」であり、学習目標は、「社会の仕組みを理解し、社会との繋がりを考えるとともに、様々な社会課題を解決するための知識や社会生活に必要な知識を習得し、社会貢献の精神を醸成する。」であり、講義科目には、「市民生活と法」「憲法」「法学概論 (1)」「法学概論 (2)」「現代社会と経済」「日本の政治・経済」「社会学」「経済学 (1)」「経済学 (2)」の 9 科目が設置されている。

そこで「教養教育科目 B 群」社会構造と生活」を充実させるために～これからを社会・生活・経済への各眼(まなこ)で考える～」と題して、「社会構造と生活」

に対する学生の思いやそこで学びたい事柄、さらには学修内容の充実につながるような授業方法等についてグループ内で意見交換を行い、大学へ提案することにした。

3. フクトークの実施方法

(1)参加希望学生の募集、及び参加登録について

今回は、2024(令和 6)年 10 月 22 日から 11 月 20 日の期間に参加学生を募った。告知は以下の 3 種の方法で行った。1 つ目は学内にポスターを掲示した。2 つ目は本学の学生ポータルシステムである Zelkova による告知を行った。3 つ目は各学科の教員や共通教育科目担当の教員から授業などを通じて連絡した。

また参加登録は、Microsoft の Forms を使用し、参加希望学生には、学生番号と氏名を記入してもらった。

(2)事前説明会の開催

2021(令和 3)年度から「フクトーク」の事前説明会を実施している。目的は、①スモール・グループ・ディスカッション(以後、SGD とする)での対話の時間を十分にとるため、②学生に議論のテーマについて説明を行い、当日までの期間でテーマについて考え深め整理するとともに、そのヒントとなる資料を提供するため、③当日の SGD

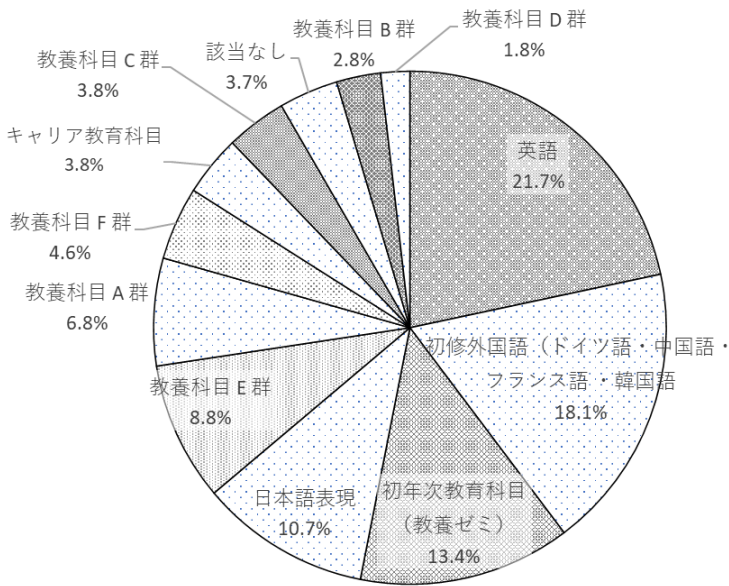


図-2.1 共通教育科目の充実度の割合
T=776 人、N=543 人(複数回答)

【STEP1】課題を発見シート

現状

受講した(感想)

受講していない(理由)

ギャップの整理

【改善点、要望、新規企画】

ありたい理想の姿

B群 社会構造と生活

社会構造、生活、経済

受講者の感想	改善点	授業内容
①得意な(ワクワク)		
②得意な(ドキドキ)		

詳細は別紙に記載してください

【STEP2】提案シート 社会構造・生活

B群 新規科目の提案(課題解決のアイデア)

アイデアの概要

おすすめする理由①

おすすめする理由②

おすすめする理由③

図-3.1 SGD で使用したフレームワーク

の方法、進め方を理解するため、の3点である。今回の事前説明会は、2024(令和6)年11月20日(水)の12:30～12:50に7号館2階のプロジェクトラウンジで実施した。

(3)フクトーク当日、及びグループ分け

「フクトーク」は、2024(令和6)年11月27日(水)16:30～18:00に、大学会館3階CLAFT教室で実施した。当日の参加学生数は13名、1グループを4名から5名とし、3グループに分かれた。

(4)進め方

当日は図-3.1に示すフレームワークへ書き込む方式でSDGを行い、その後、発表を行った。フレームワークはSTEP1とSTEP2を使用した。STEP1では一人ずつ「社会構造と生活」に対しての現状分析、受講後のありたい理想の姿、現状の授業に対する改善点や要望等について意見出しや整理を行った。STEP2では、新規科目の提案として授業名、その授業の概要、及びその授業を推奨する理由を3つ提案するものとした。

4. 各グループからの提案

前述したように、グループ数は3グループである。まず各グループから出てきた現状分析の結果をまとめて表-4.1に示す。

まず、B群を受講した理由として、「今までに習ったことない分野だった」「憲法や社会学に興味があった」との回答から、学生自身の関心事や興味から受講していることがわかる。

次にB群を受講していない理由として、「興味がなかった」「難しそうだった」「何を学習するのか分かりにくい」「定期試験が論述試験だった」という回答から、自身の興味が無い分野、及び苦手分野については受講していないことがわかる。

B群を受講した感想としては、「習ったことのない分野でとても新鮮だった」「現状の社会構造を知り、楽しく学ぶことができた」「憲法の歴史的背景と成り立ちを知り興味深く学べた」「教育と憲法の関わりを学べた」「今までの知識を得たことを復習できた」「わかりやすく解説で理解しやすかった」「先生が面白かった」などがあげられる。しかし「人数が多すぎて学びづらかった」「社会に出てから何の役に立つかわかりにくい」「内容が難しかった」などの意見があり、この点を改善することが充実度を高める要因の1つでもあると考える。

さらに、B群に限らず、一般的な授業において、授業満足度の向上させる要素、学びを深められる方法として「科目の細分化」「教科書に書いてある項目や内容だけでなく身近な話題」「グループワークをしてほしい」という意見があった。

これらの授業満足度の向上させる要素を加味して、B群「社会構造と生活」に新たに提案され

表-4.1 B群の受講に対する現状分析

受講した理由
・今までに習ったことがない分野だった
・憲法や社会学に興味があった
受講していない理由
・興味がなかった
・難しそうだった
・何を学習するのか分かりにくい
・定期試験が論述試験だった

受講した感想
・習ったことのない分野でとても新鮮だった
・現状の社会構造を知り、楽しく学ぶことができた
・憲法の歴史的背景と成り立ちを知り興味深く学べた
・教育と憲法の関わりを学べた
・今までの知識を得たことを復習できた
・わかりやすい解説で理解しやすかった
・先生が面白かった
・人数が多すぎて学びづらかった。
・社会に出てから何の役に立つかわかりにくい
・内容が難しかった

表-4.2 B 群の新規の授業科目の提案

	グループ1	グループ2	グループ3
題目	これからの社会に必要な学問	大学生入門	年金・税金への階段(カウンドダウン)
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・税について ・株について ・投資のやり方について ・社長のなり方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高×社会学、103万の壁などの社会の話題に興味を持ち、深く学ぶ。 ・テレビ×社会学といった生活をする上で必要なこと、公的サービスの利用、自立に向けて（1人暮らし）で知っておくべきこと（公共性、信頼性の高い情報の取得としてメディアの利用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年金や税金などの知っているようで詳しく知らない身近な話題についてグループワークを行い、その事柄をレポートにまとめ提出
講義手法	グループワーク	グループワーク	グループワーク 先生から前回授業のフィードバック
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に楽しく学べそう ・社会人になって役立ちそう ・コミュニケーション能力の向上となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の必要な知識が得られる ・話を聞くより映像中心の講義 ・他学部学科とのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学部にも身近で共通の話題 ・将来の不安が解消 ・コミュニケーション能力の向上

た授業科目、その内容、及び授業の実施方法の各結果を表-4.2 に示す。

1 つ目は、科目名「これからの社会に必要な学問」であり、その授業内容としては、「税について」「株について」「投資のやり方について」「社長について」等を、講義手法「グループワーク」で学びたいという提案であった。

2 つめ目は「大学生入門」であり、その授業内容は、「物価高×社会学、103 万円の壁などの社会の話題に興味を持ち深く学ぶ」「テレビ×社会学といった生活をする上で必要なこと、公的サービスの利用、自立に向けて（1 人暮らし）で知っておくべきこと（公共性、信頼性の高い情報の取得としてメディアの利用）」等を、講義手法として「グループワーク」で学びたいという提案であった。

最後の提案は「年金・税金への階段（カウンドダウン）」であり、「年金や税金などの知っているようで詳しく知らない身近な話題について」等を、講義手法として「グループワーク」「先生からの前回の授業のフィードバック」で学びたいという提案であった。

これらの提案された授業科目名は、「これからの社会に必要な学問」「大学生入門」「年金・税金への階段（カウンドダウン）」と異なっているものの、授業内容は共通する部分が多い。

すなわち、1 つ目のポイントは税金、及び 103 万円の壁である。今は大学生であるが、今後、社会人として、日本国民の三大義務の勤労の義務と納税の義務が直接的に関わってくる。そのことを踏まえて、今のうちから税のことを、自分事して知識を得ておきたいと考え必要な科目として提案したものとする。

2 つ目のポイントは、年金、株式運用、及び投資である。「人生 100 年時代」と言われるように、人類の寿命は年々伸びている。そんな世の中で近年は、物価は上がっているが、収入はまだまだその傾向にない。しかし将来の長い生活を過ごすための十分な資産を貯める必要に迫られている。同時に「株式運用」「資金運用」「NISA」などの単語は聞いたことがあるが、その制度ややり方についての知識はあまりよく理解していない。そこで今から自分事して知識を得ておきたいと考え必要な科目として提案したものとする。

3 つのポイントは、物価高、メディア情報、及び社会学である。社会に興味を持ち、社会の成り立ち、人の行動などが、社会の仕組み、メカニズムを知っておきたいと考え提案したものとする。

次に授業の講義手法としては、3 グループとも「グループワーク」というキーワードが上がっている。また新規授業への要望として「コミュニケーション能力」というキーワードも上がっている。昨

年度のフクトークでは、C 群「歴史と文化」をテーマとしたが、そのときの講義手法の要望でも、「グループワーク」というキーワードが上がっており、従来の座学中心の一方的な講義形式の学習形態ではなく、受講生である学生たちが能動的に授業に参加して学修する、いわゆるアクティブラーニングによる学修を希望しており、また授業を通じたコミュニケーション能力の向上を希望していることもわかる。

5. 参加学生の感想（アンケート結果）

「フクトーク」終了後、参加者にアンケートを実施した。その結果について以下に示す。

まず、「フクトーク」に参加したきっかけとして、図-5.1 に「どのようにして知ったか？」に関して、「教員からの参加要請があったので知った」の回答が 76%と一番多く、また図-5.2「参加の動機」に関して、「教員（担任・学科教員）から参加要請で、内容に興味を持ったから」の回答が 35%と一番多いことから、教員からの参加要請とともに、興味、関心を持てるテーマだったので参加を決めた学生が多かったと見られる。

次に、「フクトーク」の実施に対する質問として、図-5.3 に「話し合いは有意義だったか？」に対して、「非常に有意義であった」が 62%、「比較的有意義であった」が 38%であり、2つの回答を合わせると 100%になることから、参加学生が「有意義であった」と感じていることがわかる。また図-5.4

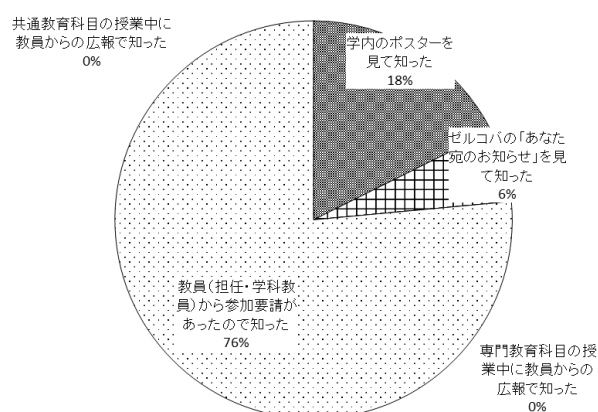


図-5.1 「フクトーク」をどのようにして知りましたか。（複数回答可）

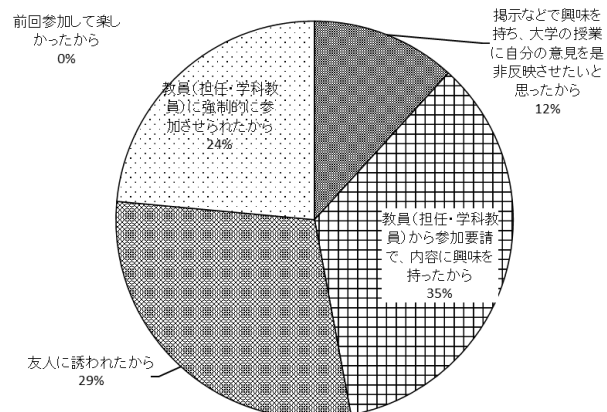


図-5.2 「フクトーク」への参加の動機を教えてください。（複数回答可）

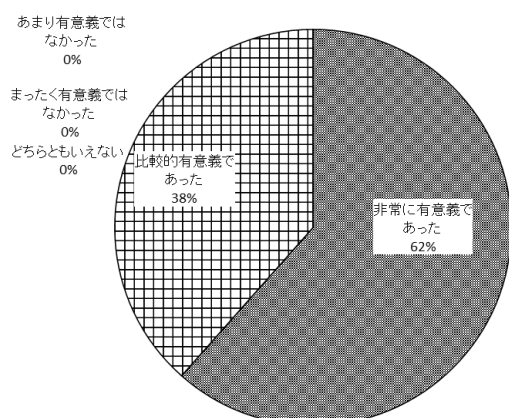


図-5.3 今回の「フクトーク」の話し合いは有意義でしたか。

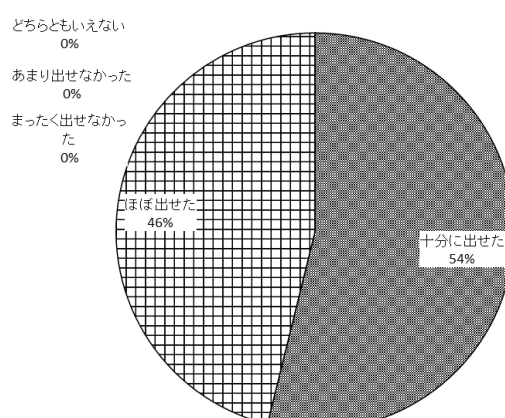


図-5.4 グループディスカッションでは、自分の意見を十分に伝えましたか。

「自分の意見が十分に出せましたか？」に対して、「十分に出せた」が 54%、「ほぼ出せた」が 46%と、これも 2 つの回答を合わせると 100%になることから、参加学生が「意見を出せた」と思っていることがわかる。また図-5.5「ディスカッションの時間」に対しては、46%が「適切であった」と回答、39%が「もう少し長いほうが良かった」と回答、図-5.6「1 グループ当たりの人数」に対しては、92%が「適切であった」と回答していた。よって、グループ構成人数は 4 人の場合、グループ内で個々の学生はその場で意見が出せたと感じてはいるものの、より深い対話をするためには、もう少し時間が長い方が良かったと感じているということがわかる。

次に、今後の授業での実現性に対する問いとして、図-5.7「提案されたプロダクトの実現の是非」では、92%が「実現してほしい」と回答していた。また図-5.8「実現してほしい項目」として、「これからの社会に必要な学問」「大学生入門」がそれぞれ 3 名ずつ、「年金・税金への階段（カウントダウン）」「全チームの意見」がそれぞれ 2 名ずつで実施を希望していた。

次に、このような取り組みに対する質問として、図-5.9「学生の意見を取り入れた新規授業の創出の取り組みは、今後も必要と思いますか。」に対して、100%が「学生の知的欲求を満たすためには、必要である」と回答していた。また図-5.10「次回の「フクトーク」に参加したいか」に対して、「内容

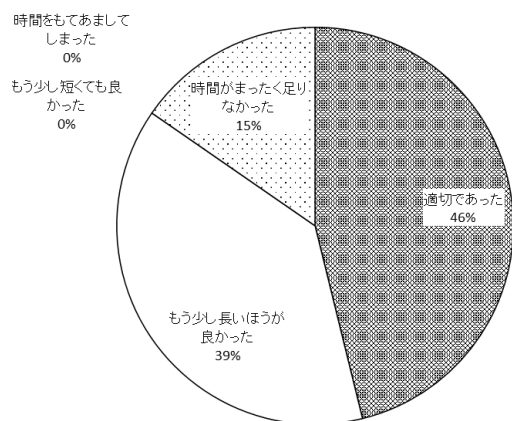


図-5.5 ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。

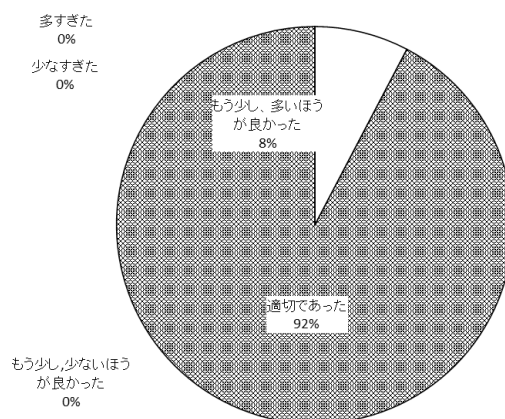


図-5.6 グループディスカッションの 1 グループの人数は適切でしたか。

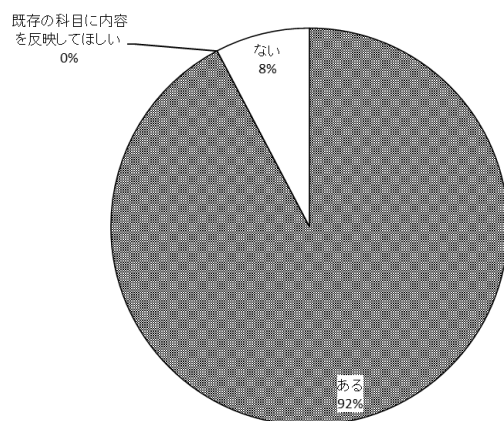


図-5.7 提案された項目の中で是非、実現してほしいものはありますか。

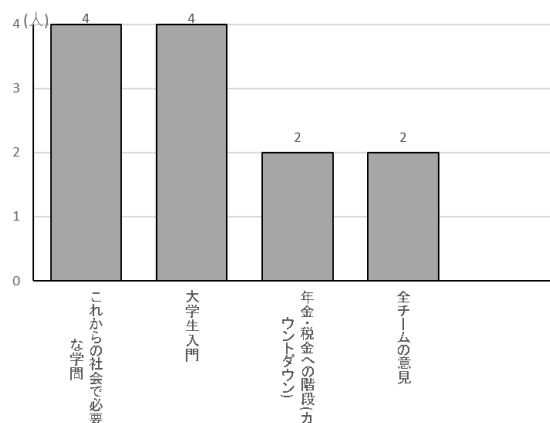


図-5.8 提案した中で実現してほしい項目はなにですか。

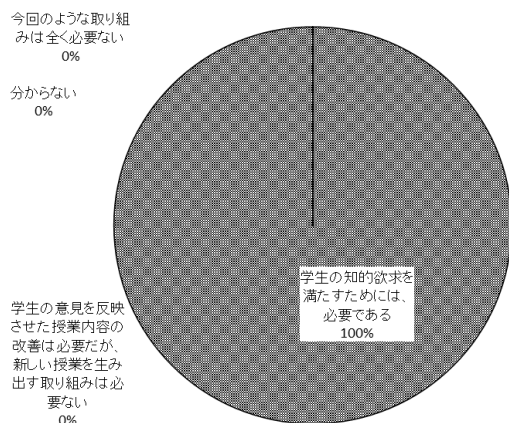


図-5.9 学生の意見を取り入れた新規授業の創出の取り組みは、今後も必要と思いますか。

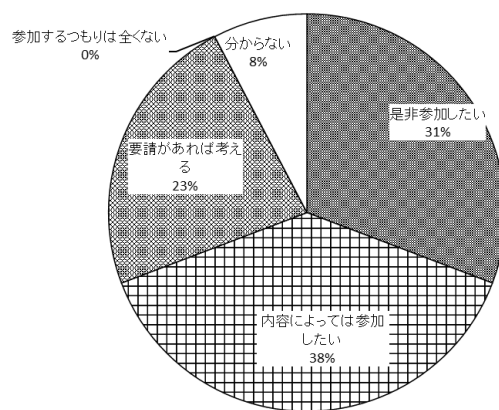


図-5.10 次回の「フクトーク」に参加したいと思いますか。

表-5.1 「フクトーク」に対する自由記述の結果

- ・他学部、他学年の方の話が聞けて、想像していたより楽しく有意義に過ごせました。
- ・このような機会は、今後も増やしていくべきだと思います。
- ・他学部とのコミュニケーションは、楽しかったです。
- ・違う学科、学年など普段過ごしている中で話す機会が無い人たちと話せて楽しかったです。
- ・他学科の人と話すことで、自分では思わなかった意見を聞くことができてよかった。話し合いの時間が短かったので、もう少し長くして欲しい。
- ・普段、制限時間内にグループで1つ案を出すことはしないので貴重な体験になりました。今日の経験が僕を強くしてくれると思います。
- ・考えを共有でき、他学部の方とも沢山会話ができて、とても興味深い機会になった。グループで和気藹々と話せて楽しかった。時間がもう少し欲しかった。
- ・最初はうまく話せるか不安だったが、上級生がうまく回してくださったから話しやすかった。学年がバラけていて良いと思った。
- ・参加してみると楽しかったけれど、広報的に学生が知る機会が少なすぎるため、もっと大々的に知らせてほしい。そして、もっと就職に役立つ名前にしてほしい。例えば、「福山大学授業アイデアソン」みたいなアイデアソンとか就職でいいやすい名前にしてほしい。

「内容によっては参加したい」が 38%と一番多く回答していた。

さらに、表-5.1 は「フクトーク」に参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど」を自由に記載してもらった結果である。

- ・他学部、他学年の方の話が聞けて、想像していたより楽しく有意義に過ごせました。
- ・他学科の人と話すことで、自分では思わなかった意見を聞くことができてよかった。話し合いの時間が短かったので、もう少し長くして欲しい。
- ・考えを共有でき、他学部の方とも沢山会話ができて、とても興味深い機会になった。グループで和気藹々と話せて楽しかった。時間がもう少し欲しかった。
- ・最初はうまく話せるか不安だったが、上級生がうまく回してくださったから話しやすかった。学年がバラけていて良いと思った。

等グループディスカッションに対する高評価の回答が多く見受けられた。他者との交流、意見交換、及び課題解決型の授業を実施することで、他者との考え方の違い、自己の発見、及び意見出しに対する共感が得られたのではないかと推察する。

6. おわりに

令和6年度の「フクトーク」では、B群「社会構造と生活」をテーマに、新規科目、学修手法に対して学生の思いや学びたい事柄、学修内容の充実につながるような事柄について、グループ内で意見が交わされ、大学へ提案が行われた。B群「社会構造と生活」は、大学生として、今後、社会人として関連する納税、年金、株式運用、社会学等について、学生自身の興味や関心事に関連づけされた内容、学びとなるような取り組みが求められていると言えよう。

また講義手法として「グループワーク」というキーワードが上がっている。従来の座学中心の一方的な講義形式の学習形態ではなく、受講生である学生たちが能動的に授業に参加して学修する、いわゆるアクティブラーニングによる学修が求められている。

謝辞：本行事の実施にあたり、参加してくれた学生、及び学生参加の告知等でご協力いただきました関係の多数の教職員の方々にここに記してお礼申し上げます。



学生発表



総評

注

- (1) 福山大学 大学教育センター 令和5年度 共通教育アンケート(1年次)実施報告書、5頁、
<https://www.fukuyama-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/10/令和5年度共通教育アンケート（1年次生対象）実施報告書.pdf>